

金沢市足輕資料館

金沢市足輕資料館に来ると、日本の封建時代の雰囲気により一層感じられるでしょう。

封建時代、家のデザインやサイズは階級によって決められていました。長町に見られる家の多くには、土壁が通り沿いに見え、専用の門をくぐると庭園が続く。これは、中流階級の武士の家だ。しかし、より低い階級の者の家は、生垣に囲まれた庭付きの家でした。このような構造は、金沢市足輕資料館で見ることができます。

この資料館に保存されているのは、最古の「足輕」の家として残された2棟です。足輕は封建時代の日本の歩兵です。足輕は、戦国時代と桃山時代だったおおよそ1467～1600年の間には弓矢と鉄砲隊を構成していましたが、江戸時代（1603—1867）の加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では武士階級の最下位として位置づけられました。

資料館には、高西家と清水家の2棟の足輕屋敷がある。訪問者は、これらの家屋内を歩き回り、当時の足輕の住居、生活、社会について知ることができます。